

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 (初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン掲載))

【第32回】

学校・家庭・地域の連携を密にする「放課後子ども教室」

愛知県岡崎市細川小学校長 佐 宗 正 義

本校は全児童 503 名の郊外に位置する田園の多い学区です。通学区域も広いことがあって、帰宅後の遊び相手のごく限られた子に限定せざるを得ません。こうしたことから、「進んで地域の～人・もの・こと～に学び、地域と連携を深めて開かれた学校づくりをめざす」を毎年重点努力目標にあげてきました。

このような学区の事情からか昨年開設された「放課後子ども教室」は当初から保護者の関心は大変な高さでした。用意された PTA 研修室だけではとてもスペースが足りそうもなく、対象学年を 3 年生までと限定し定員 40 名の登録制で試行的にスタートすることになりました。

教室は後半分をたたみで敷き詰め、周りに書架を並べて腰掛けても、座っても、寝そべっても自由に活動できるように環境を整えました。

開設当初は、異学年交流はほとんど見られませんでした。徐々に室内外での遊び、ボランティアさんを困らせた活動にごく自然に異学年交流が見られるようになりました。年長の 3 年生がリーダーとなっている集団ではほとんど争う姿は見られず、私自身が経験した年長者がまとめる子ども社会特有の集団を思い出させてくれました。今では無償ボランティアも、将棋、民謡、折り紙、読み聞かせ、書道と学区在住の方々の登録があり、子どもは自由参加ですが高齢者の方々との交流を心待ちにしているようです。

2 年目の今年度も対象は 3 年生までとしましたが、定員 3 倍余の 123 名の希望者があり、2 名の管理指導員だけでは目が届かないと懸念していたところ、保護者が毎日交代でボランティア見守りをしてくれることになり希望者全員の登録を認めました。見守りの保護者も積極的に子どもの輪の中に参加してくれ、子どもの実態に触れることができ、よい勉強になると喜んでくれています。

(初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン) 第 1 2 9 号に掲載)